

# 令和7年度 全国学力・学習状況調査 上富良野町の結果について

令和7年9月10日  
上富良野町教育委員会

## I 調査の概要

### 1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2 調査対象学年 町内小学校第6学年、町内中学校第3学年 原則として全児童生徒

### 3 調査内容

#### (1) 教科に関する調査(国語、算数・数学、理科)

・身に付けておかなければ、後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力など

#### (2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

| 児童生徒に対する調査                    | 学校に対する調査                            |
|-------------------------------|-------------------------------------|
| ・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 | ・指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 |

### 4 調査の期日 令和7年4月17日(木)

### 5 調査を実施した学校・児童生徒数(全国悉皆調査)

|     | 上 富 良 野 |    | 北 海 道 |        | 全 国    |         |
|-----|---------|----|-------|--------|--------|---------|
|     | 学校数     | 人数 | 学校数   | 人数     | 学校数    | 人数      |
| 小学校 | 3       | 65 | 公表無し  | 34,203 | 18,470 | 936,576 |
| 中学校 | 1       | 64 | 公表無し  | 33,467 | 9,584  | 871,097 |

## II 調査の結果

※今回の調査で測定できるのは「学力の特定的一部分」であり、子どもの学力の全てでないというおさえに立っています。

### 1 児童生徒の学力の状況

※小学校(国語、算数、理科)、中学校(国語、数学)は、平均正答率を採用  
平均正答率は、各教科の全問題数に対して、正答した問題数の割合

※中学校：理科は、IRT(項目反応理論)スコアを採用

IRTスコアは、各問題の難易度から学力を推定し、500点を基準とする。

<全国と上富良野町の結果比較の基準>

「上回る」 +3以上 「やや上回る」 +1～+3 「ほぼ同様」 ±1  
「下回る」 -3以下 「やや下回る」 -1～-3

## (1) 小学校

| 教 科 | 全道平均<br>正答率(%) | 全国平均<br>正答率(%) | 全国平均正答率に対する<br>上富良野町の平均正答率の結果 |
|-----|----------------|----------------|-------------------------------|
| 国 語 | 65.0           | 66.8           | 全国平均をやや上回る                    |
| 算 数 | 55.0           | 58.0           | 全国平均をやや下回る                    |
| 理 科 | 56.0           | 57.1           | 全国平均をやや上回る                    |

## (2) 中学校

| 教 科 | 全道平均<br>正答率(%)   | 全国平均<br>正答率(%)   | 全国平均正答率に対する<br>上富良野町の平均正答率の結果             |
|-----|------------------|------------------|-------------------------------------------|
| 国 語 | 69.0             | 69.8             | 全国平均をやや下回る                                |
| 数 学 | 51.0             | 52.5             | 全国平均をやや下回る                                |
| 理 科 | 全道 IRT<br>スコア(点) | 全国 IRT<br>スコア(点) | IRT スコアの基準(500点)に対する<br>上富良野町の IRT スコアの結果 |
|     | 503              | 506              | 基準を下回る                                    |

小学校は、国語、算数が全国平均をやや上回りましたが、算数は、全国平均をやや下回りました。

国語では、「漢字を文中で正しく使う力」「言葉の変化や世代による言葉の違いに気付く力」に成果が見られましたが、「目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりしたりして、伝え合う内容を検討することができる力」に課題が見られました。

算数では、「異分母分数の加法」「伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだす力」に成果が見られましたが、「理由や根拠について、式や言葉などを用いて記述する力」に課題が見られました。

理科では、「土の粒の大きさによる水のしみ込み方との関係」「電磁石の強さとコイルの巻数の関係」等について成果は見られるが、「身の回りの金属と通電の関係」について課題が見られました。

中学校は、国語、数学で、全国平均正答率を下回るとともに、理科においても IRT スコア基準を下回りました。

国語では、「文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉える力」等で成果が見られましたが、「自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書く力」等で課題が見られました。

数学では、「事象に即してグラフから必要な情報を読み取る力」等で成果が見られましたが、「A 数と式」「B 図形」「C 関数」の領域全般で課題が見られました。

理科では、「探究から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りを表現する力」等については、成果は見られるが、「設定した仮説が正しい場合の実験結果の予想を選択する力」等に課題が見られました。

## 2 児童生徒質問紙の傾向

※ 数字は%、「している」「どちらかといえばしている」など肯定的な割合の合計です。

## (1) 家庭での生活・学習について

## ○基本的な生活習慣

| 質 問 事 項           | 小学校  | 全 国  | 中学校  | 全 国  |
|-------------------|------|------|------|------|
| 朝食を毎日食べている        | 90.8 | 93.7 | 92.2 | 91.2 |
| 毎日、同じくらいの時刻に寝ている  | 78.5 | 81.9 | 78.5 | 71.0 |
| 毎日、同じくらいの時刻に起きている | 84.7 | 91.0 | 92.2 | 92.6 |

## ○平日、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか？

(学校の授業以外で学習塾や家庭教師に教わっている時間も含む)

|     | 3時間以上 | 2～3時間 | 1～2時間 | 30分～1時間 | 30分以下 | 全くしない |
|-----|-------|-------|-------|---------|-------|-------|
| 小学校 | 0.0   | 9.2   | 40.0  | 44.6    | 4.6   | 1.5   |
| 全 国 | 12.1  | 12.8  | 29.1  | 27.4    | 12.9  | 5.7   |
| 中学校 | 0.1   | 7.8   | 20.3  | 35.9    | 15.6  | 17.2  |
| 全 国 | 9.9   | 20.9  | 30.8  | 19.1    | 11.3  | 7.7   |

○平日、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか？（教科書、参考書、漫画、雑誌は除く）

|     | 2時間以上 | 1～2時間 | 30分～1時間 | 10～30分 | 10分以下 | 全くしない |
|-----|-------|-------|---------|--------|-------|-------|
| 小学校 | 3.1   | 3.1   | 12.3    | 18.5   | 32.3  | 30.8  |
| 全 国 | 6.4   | 8.8   | 15.9    | 22.1   | 17.4  | 29.2  |
| 中学校 | 4.7   | 9.4   | 9.4     | 21.9   | 18.8  | 32.8  |
| 全 国 | 3.6   | 6.0   | 11.8    | 19.0   | 14.8  | 41.8  |

○学校の授業以外に平日、1日当たりどれくらいの時間、P C・タブレットなどのI C T機器を勉強のために使っていますか？

|     | 3時間以上 | 2～3時間 | 1～2時間 | 30分～1時間 | 30分未満 | 全くしない |
|-----|-------|-------|-------|---------|-------|-------|
| 小学校 | 1.5   | 3.1   | 6.2   | 20.0    | 32.9  | 24.6  |
| 全 国 | 4.0   | 4.6   | 11.0  | 22.9    | 44.6  | 25.4  |
| 中学校 | 0.0   | 0.0   | 10.9  | 9.4     | 39.1  | 39.1  |
| 全 国 | 2.7   | 3.2   | 7.8   | 17.9    | 35.9  | 30.3  |

小・中学生とも家庭における基本的な生活習慣（早ね・早おき・朝ごはん）が身に付いている。平日の勉強時間では、小・中学生ともに「30分～2時間」が多く、「1時間以上」勉強している割合は、全国よりも少なくなっている。

平日の読書時間については、小学生は「10分以下」、中学生は「10～30分」が最も多く、中学生では「1時間以上」が全国よりも多くなっている。

平日、勉強のためにタブレットなどI C T機器を使う時間については、小・中学生ともに「30分未満」が最も多く、「1時間以上」使用している割合は、全国よりも低くなっている。

## （2）学校での生活・学習について

| 質 問 事 項                                      | 小学校  | 全 国  | 中学校  | 全 国  |
|----------------------------------------------|------|------|------|------|
| 自分には、よいところがある                                | 78.4 | 86.9 | 82.8 | 86.2 |
| 将来の夢や目標を持っている                                | 87.7 | 83.1 | 64.1 | 67.3 |
| 人が困っているときは、進んで助けている                          | 93.9 | 93.7 | 89.1 | 90.9 |
| 友達関係に満足している                                  | 84.6 | 91.7 | 96.1 | 85.1 |
| 学校に行くのは楽しい                                   | 73.9 | 86.5 | 82.8 | 86.1 |
| いじめは、どんな理由があってもいけない                          | 96.9 | 97.2 | 98.5 | 95.9 |
| 人の役に立つ人間になりたい                                | 95.3 | 96.4 | 96.9 | 96.6 |
| 国語の勉強は好き                                     | 37.0 | 58.3 | 73.4 | 57.9 |
| 国語の授業の内容はよく分かる                               | 70.8 | 82.8 | 90.7 | 77.0 |
| 国語で学習した内容は、将来、社会に出た時に役に立つ                    | 87.6 | 90.4 | 84.4 | 88.3 |
| 算数・数学の勉強は好き                                  | 58.4 | 57.9 | 56.2 | 53.8 |
| 算数・数学の授業の内容はよく分かる                            | 69.2 | 78.3 | 70.3 | 70.3 |
| 算数・数学で学習した内容は将来、社会に出た時に役に立つ                  | 89.2 | 91.6 | 78.1 | 75.2 |
| 理科の勉強は好き                                     | 84.6 | 80.1 | 67.2 | 63.8 |
| 理科の授業内容はよく分かる                                | 90.7 | 88.9 | 76.2 | 75.2 |
| 理科の授業で学習したことは将来、社会に出た時に役に立つ                  | 61.5 | 79.9 | 57.8 | 63.4 |
| 授業で、課題解決に向けて、自分で考え自分から取り組んだ                  | 46.2 | 80.3 | 71.9 | 77.7 |
| 授業で、自分の考えがうまく伝わるよう工夫して発表した                   | 66.1 | 68.6 | 56.3 | 63.0 |
| 話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている | 81.5 | 84.9 | 84.4 | 84.7 |
| 授業でP C・タブレットなどのI C T機器を週3回以上使用した             | 73.8 | 71.7 | 58.3 | 76.5 |
| I C T機器を活用することで、自分のペースで理解しながら学習を進めることができる    | 69.3 | 81.3 | 85.7 | 85.5 |
| I C T機器を活用することで、分からないことがあった時に、すぐ調べることができる    | 86.1 | 89.2 | 94.8 | 92.1 |

「自分にはよいところがある」と認識する「自己肯定感」は、中学生は、全国とほぼ同様となったが、小学生では、全国より低く、また例年（８５％～９０％台）と比較しても低くなっている。

「将来の夢や目標を持っている」については、小・中学生ともに。全国とほぼ同様となっている。

「人が困っているときに助けている」「友達関係に満足している」では、小・中学生ともに高い割合となっていて、充実した学校生活を送っていることが推察できる。

「いじめは、どんな理由があってもいけない」については、ほぼ全員の児童生徒が理解されていて、いじめに対する認識は深まっている。

更に、「人の役に立つ人間になりたい」という「自己有用感」についても、小・中学生ともに大変高い割合となっている。

PC・タブレット等の ICT 機器を活用して「分からないことがあった時に、すぐ調べることができる」割合は、高くなってきている。

### (3) 関心・意欲・態度等について

| 質 問 事 項                          | 小学校  | 全 国  | 中学校  | 全 国  |
|----------------------------------|------|------|------|------|
| 地域や社会をよくするために何をしてみたい             | 81.6 | 80.6 | 76.5 | 75.3 |
| 自分の家にある本の本数が２６～１００冊（雑誌・新聞・教科書以外） | 38.5 | 32.2 | 42.2 | 30.8 |
| 新聞を週１回以上は読んでいる                   | 7.7  | 10.5 | 4.7  | 5.7  |

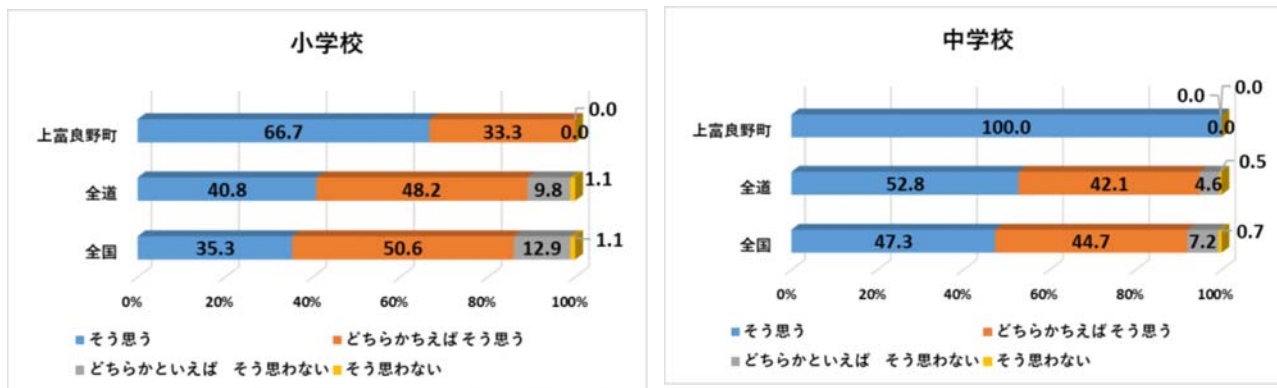
「地域や社会をよくするために何かをしてみたい」という思いは、小・中学生ともに高くなっている。

自宅の蔵書数は、全道・全国とも２６～１００冊が一番多く、本町も同様の傾向である。

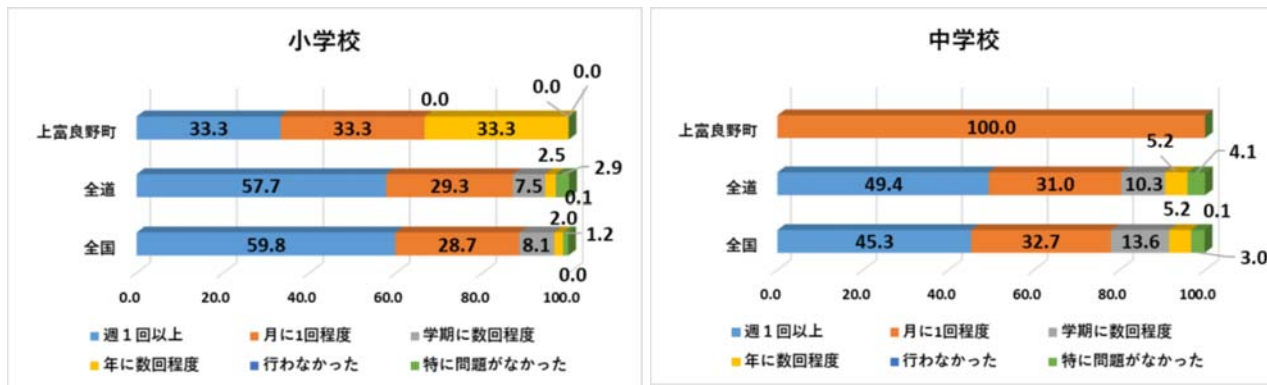
「新聞を週１回以上読む」については、全国の傾向も高くはないが、中学生よりも小学生の割合が高くなっている。

## 3 学校質問紙の傾向

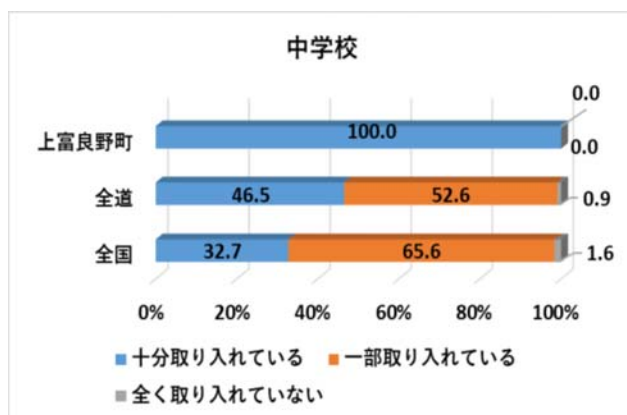
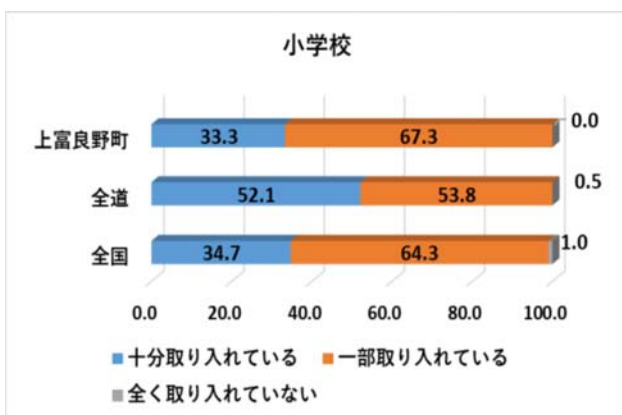
(1) 児童生徒は、授業中の私語は少なく、落ち着いていますか。



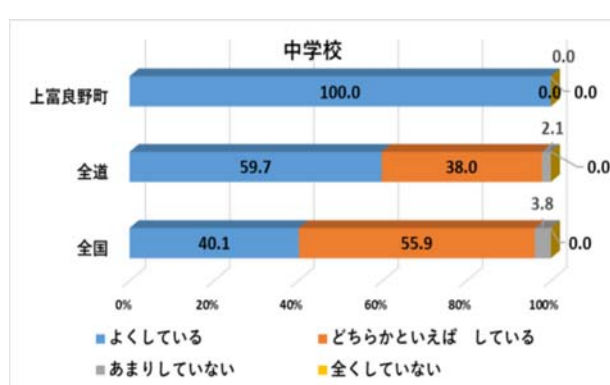
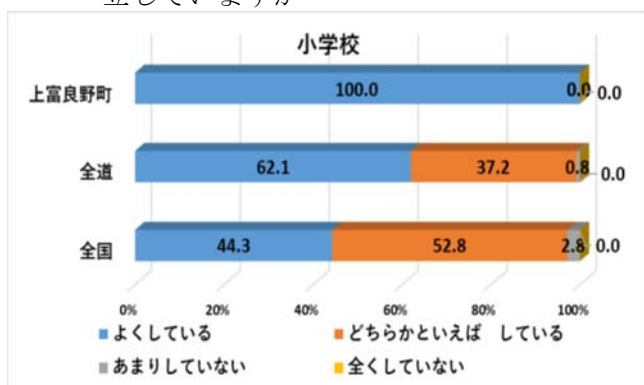
(2) 教員が学級の問題を抱えている場合、ともに問題解決にあたることを行っていますか。



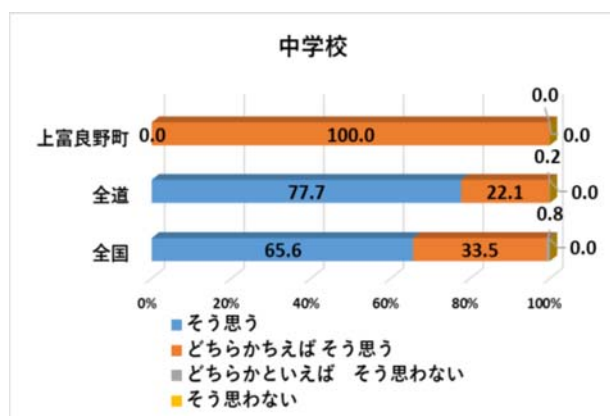
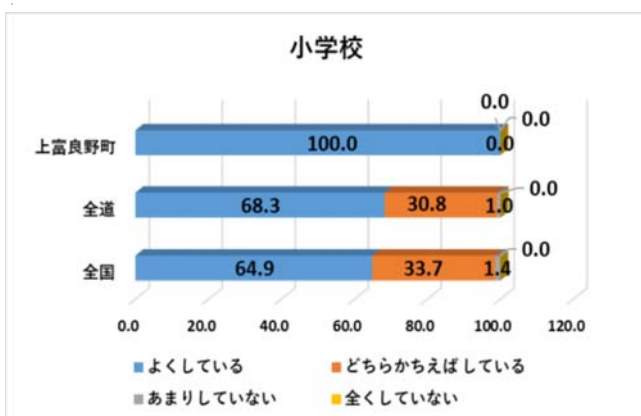
(3) ICT を活用した校務の効率化（業務の軽減）に取り組んでいますか



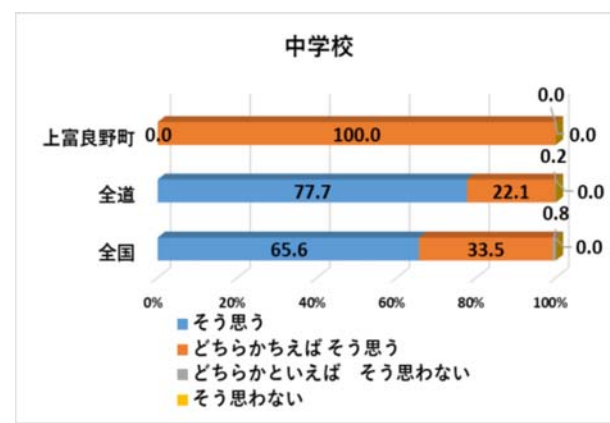
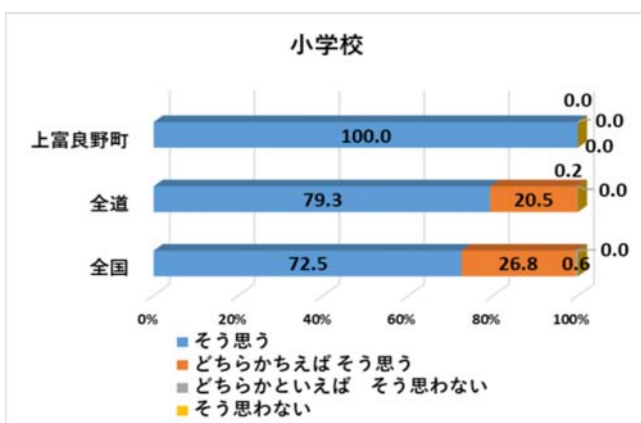
(4) 児童生徒・地域の実態をもとに、教育課程を編成・実施・評価・改善するPDCAサイクルを確立していますか



(5) 授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか

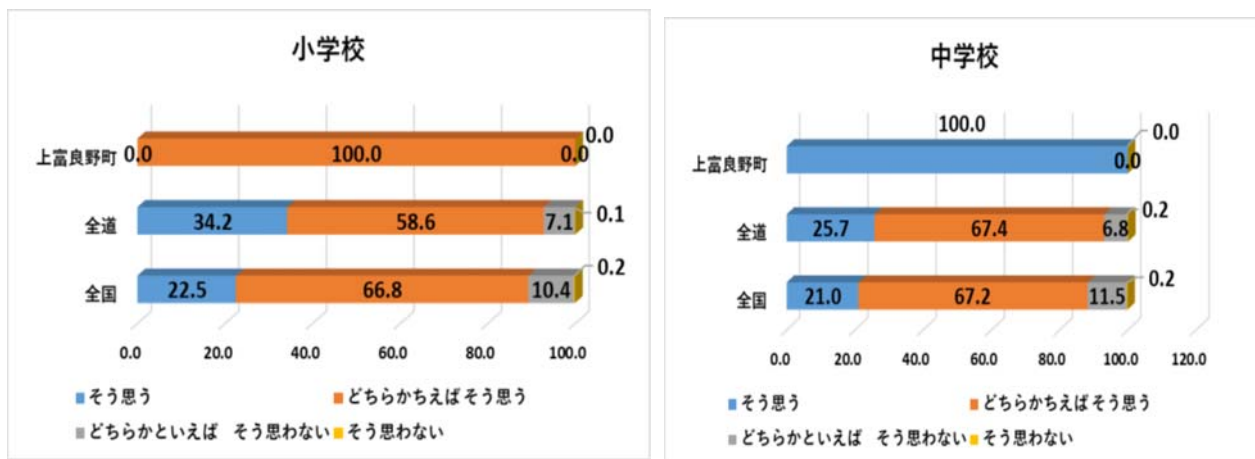


(6) 教職員が困っているとき、互いに相談しやすい雰囲気がありますか

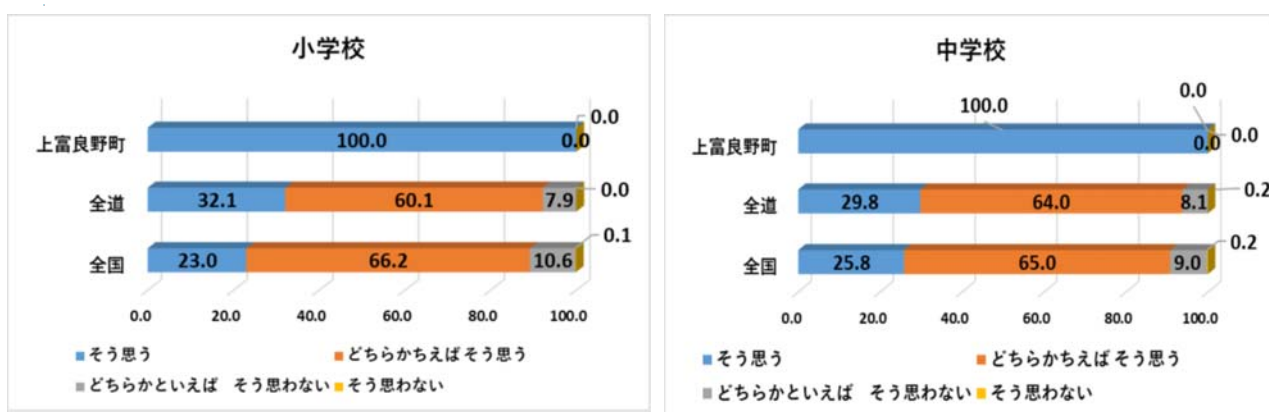




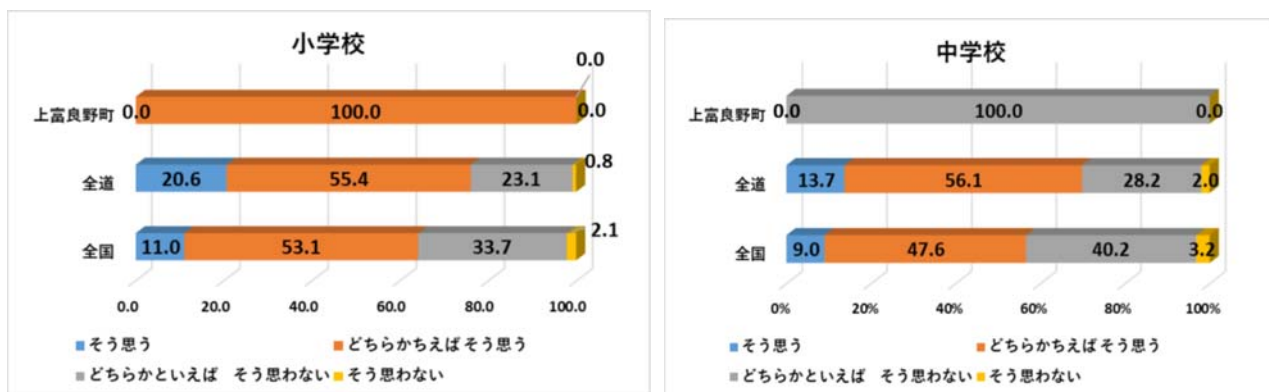
(7) 児童生徒は、課題の解決に向けて、自分で考え、自分で取り組むことができている



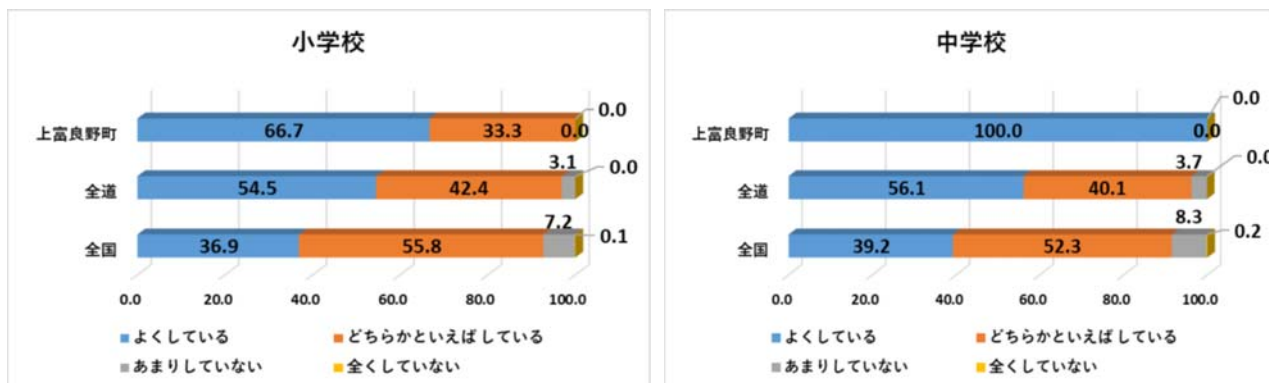
(8) 児童生徒は、話し合い活動で、自分の考えをしっかりと伝えることができているか



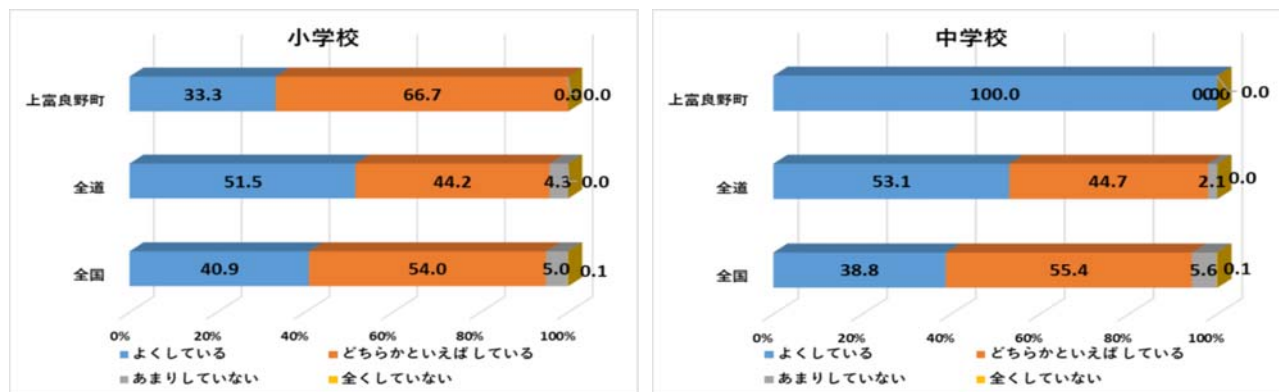
(9) 授業では、児童生徒が自分で学ぶ内容を決めて、計画を立てて学ぶ活動を行っていますか



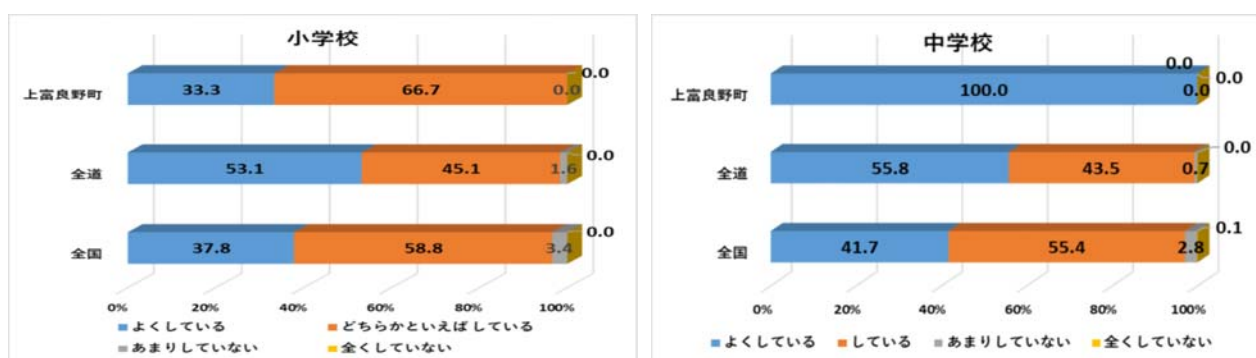
(10) 総合的な学習の時間において、課題設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしていますか



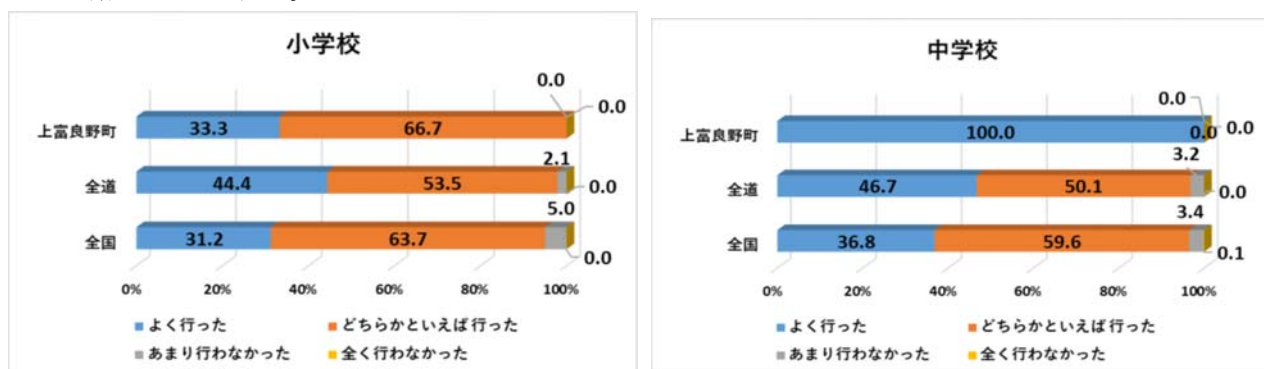
(1 1) 学校生活をよりよくするために、学級会で話し合い、互いの意見の良さを生かして解決方法などを合意形成できる指導を行っていますか



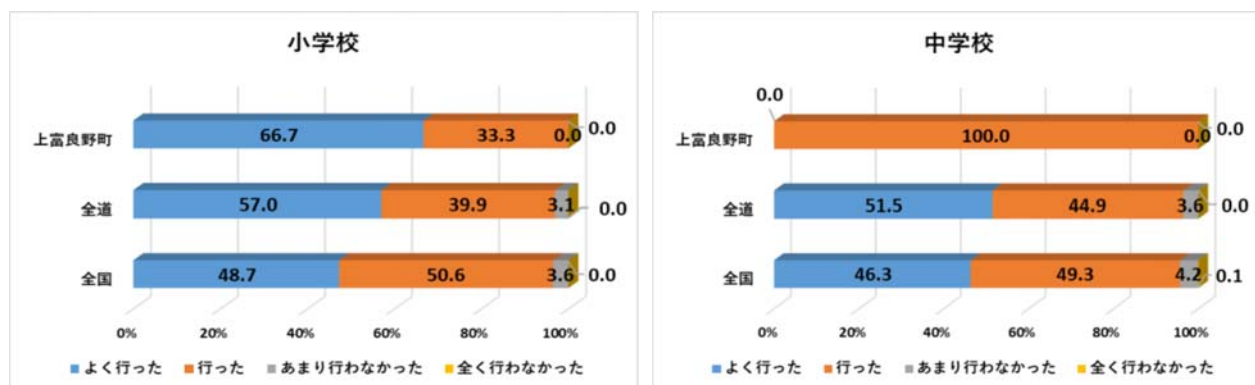
(1 2) 「特別の教科 道徳」において、自分自身の問題として捉え、考え・話し合うような指導の工夫をしていますか



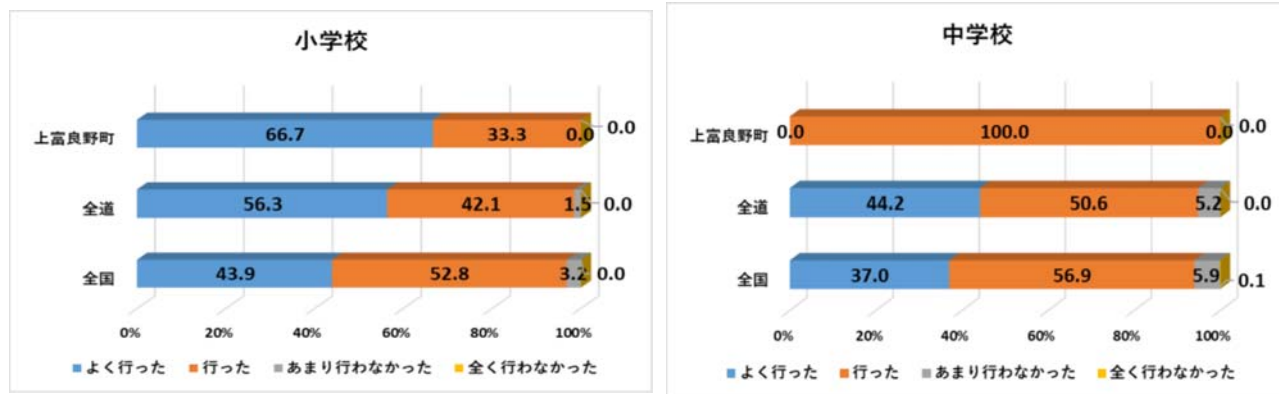
(1 3) 国語の授業で、児童生徒の学習状況について、改善すべき点を伝え、改善できる手立てを講じていますか。



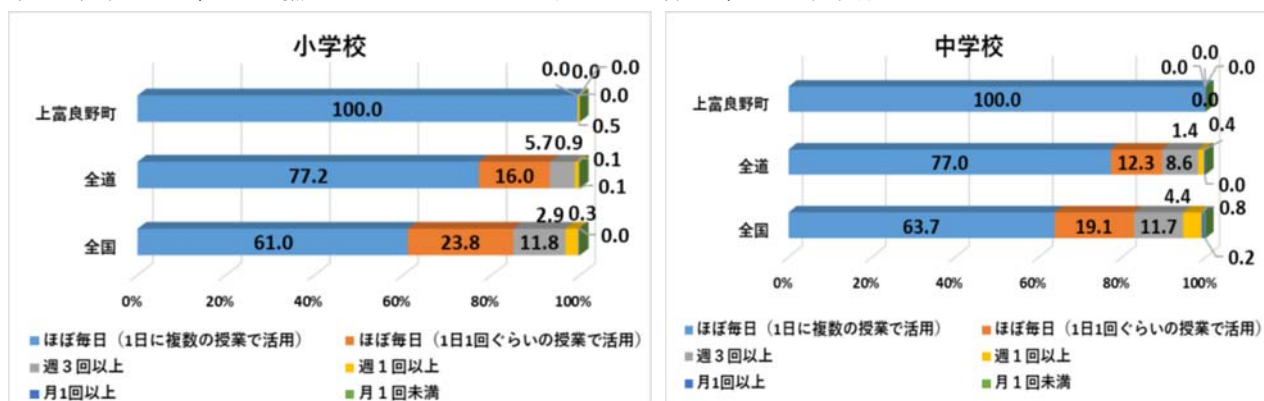
(1 4) 算数・数学の授業では、問題の答えを求めさせるだけではなく、児童生徒に筋道を立てて説明させるような授業をしていますか



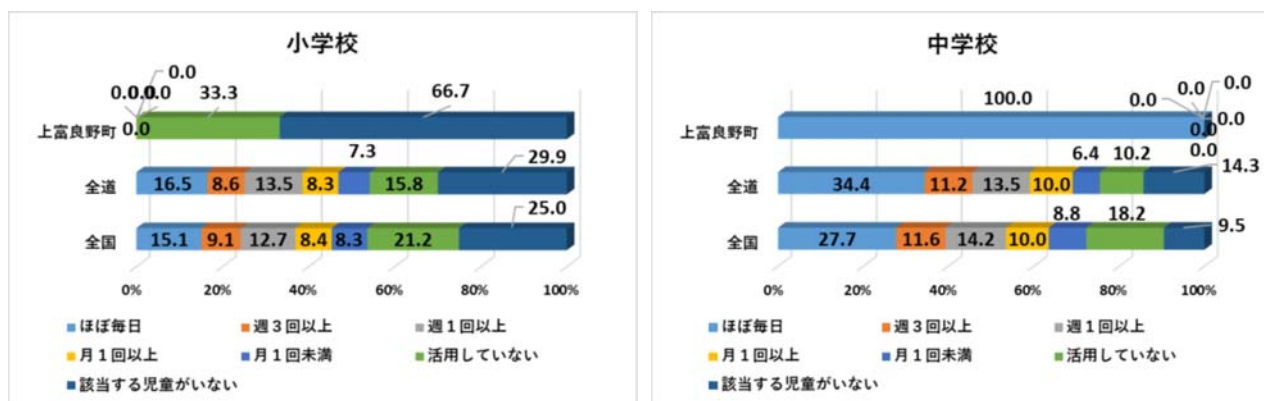
(15) 理科の授業では、既習の内容や生活経験を基に、予想や仮説を発想することができる指導を行っていますか



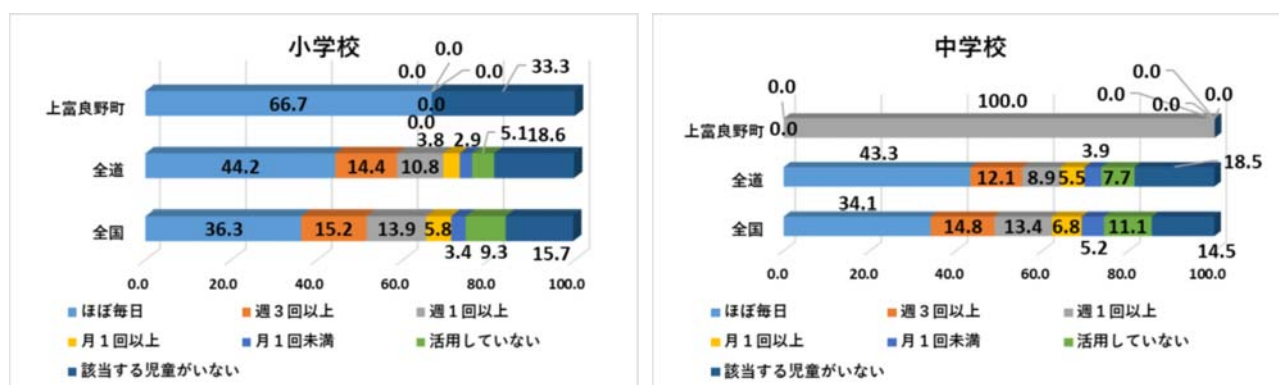
(16) 児童生徒に配備された PC・タブレットを授業で、どの程度使いましたか



(17) PC・タブレットなどの ICT 機器について、不登校児童生徒に対する学習活動の支援として、どの程度活用していますか

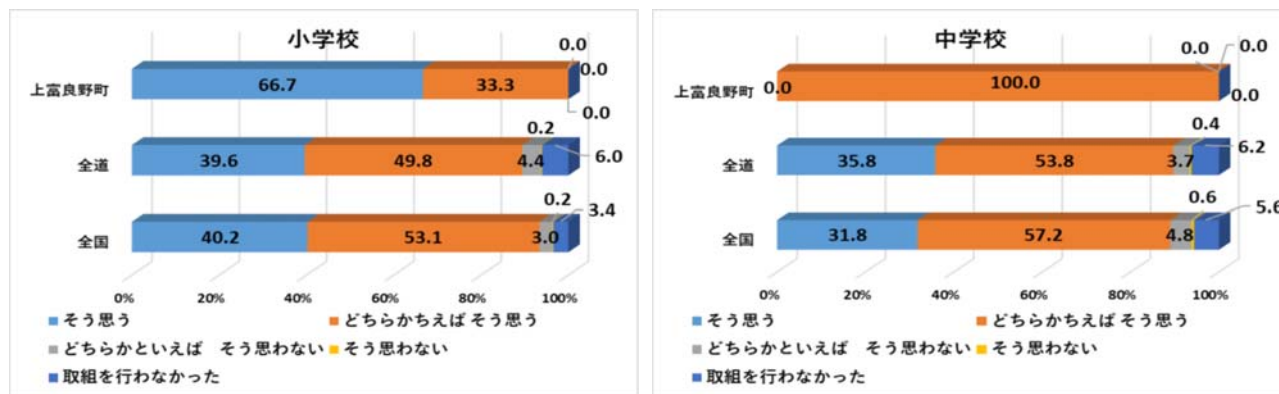


(18) PC・タブレットなどの ICT 機器について、特別な支援を要する児童生徒に対する学習活動の支援として、どの程度活用していますか

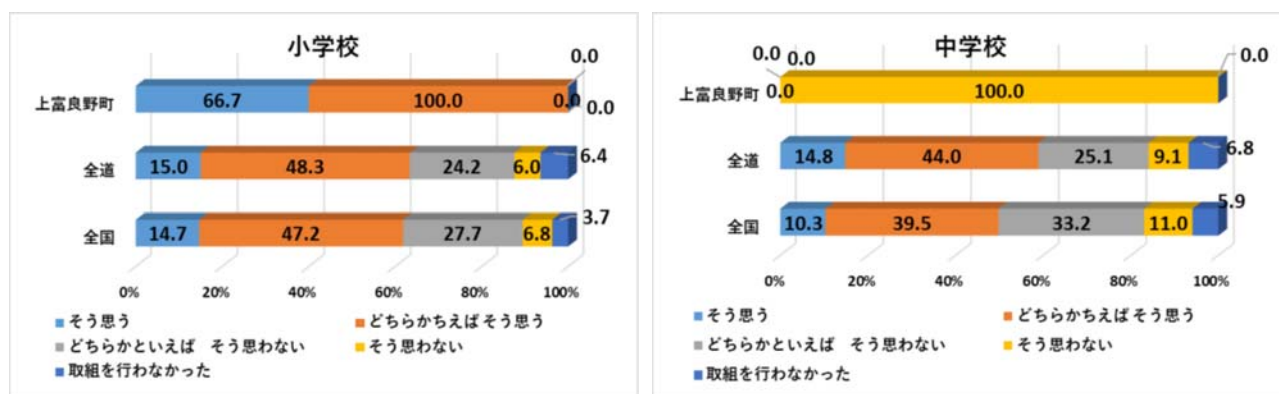




(19) コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者との相互理解は深まっていますか



(20) コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組は、教員の業務負担軽減に効果がありましたか



- 小・中学校ともに、授業中は、集中し、落ち着いて学習に取り組んでいる。
- 小・中学校ともに、教員が学級上の問題を抱えている場合、組織的に解決する体制は整えられている。
- ICT 機器等を活用しての校務の効率化（業務の軽減）の取組は、小・中学校ともに進められている。
- 小・中学校ともに、PDCA サイクルが確立され、様々なデータ等を基に、教育課程の編成・実施・評価・改善がなされている。
- 小・中学校ともに児童生徒の実態をとらえ、「主体的・対話的な学び」の実現に向けての授業研究や、生徒指導上の様々な事例を通じた実践的な研修が行われている。
- 小・中学校ともに、教職員同士が、互いに相談しやすい職場の雰囲気が醸成されている。
- 本町の児童生徒は、課題解決に向けて、主体的に取り組むことができていると、小・中学校ではとらえている。
- 本町の児童生徒は、話し合い活動で、自分の考えをしっかりと伝えることができていると、小・中学校ではとらえている。
- 授業において、児童生徒が自分で学ぶ内容を決めて、計画を立てて学ぶ活動は、中学校よりも小学校がよく行われている。
- 総合的な学習の時間では、課題設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導が、小・中学校ともに行われている。
- 学級や学校をよりよくするための話し合い（学級活動）では、自分と違った意見などからもその良さを見だし、合意形成していくような指導がなされている。
- 「特別の教科 道徳」において、課題を自分事として捉えて考え、話し合うことを重視し、「議論する道徳」にむけた授業改善が進められている。
- 小・中学校ともに、国語の授業では、児童生徒の学習状況について、改善すべき点を伝え、改善できる手立てを講じている。
- 算数・数学の指導では、ただ問題の答えを求めさせるだけではなく、児童生徒に筋道を立てて説明させるような授業が、小・中学校ともによく行われている。
- 理科の授業では、既習の内容や生活経験を基に、予想や仮説を発想することができる指導が、小・中学校ともに、よく行われている。
- 「日常の授業で PC・タブレットなどの ICT 機器を使う頻度」については、小・中学校ともに、1日に複数回、ほぼ毎日のように活用されている。

- 不登校の児童生徒の学習活動の支援として、「PC・タブレットなどの ICT 機器の活用」については、当該生徒数の多い中学校において、しっかりと生徒の学びを保障する取組がなされている。
- コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者との、相互理解は深まっていると、小・中学校ともにとらえている。
- コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組が、教員の業務負担軽減に効果があると感じているのは、小学校が多い。

### Ⅲ 現状と今後の取組

- 1 小学校は、国語と理科が全国平均をやや上回りましたが、算数は、全国平均をやや下回りました。

国語では、「言葉の変化や世代による言葉の違いに気付く力」等に成果が見られましたが、「目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができる力」等に課題が見られました。

算数では、「伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだす力」等に成果が見られましたが、「理由や根拠について、式や言葉などを用いて記述する力」等に課題が見られました。

理科では、「電磁石の強さとコイルの巻数の関係」等に成果が見られましたが、「身の回りの金属と通電の関係」等について課題が見られました。

国語、算数、理科ともに、上位グループの割合が、全国よりも多くなってきているが、算数では、下位グループの割合が全国よりも多くなっている。

中学校は、国語、数学で、全国平均を下回り、また理科においても IRT スコア基準を下回りました。

国語では、「目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にする力」等で成果が見られましたが、「自分の考えが伝わるように、根拠を明確にして書く力」等で課題が見られました。

数学では、「事象に即して、グラフから必要な情報を読み取る力」等で成果が見られましたが、「式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明する力」等で課題が見られました。

理科では、「抵抗に関する知識」等で成果が見られましたが、「設定した仮説が正しい場合の実験結果の予想を選択する力」等に課題が見られました。

特に数学では、下位グループ・中位グループの割合が非常にくなっています。

「確かな学力育成プラン」を見直し、授業内容の精選、個別や全体などの指導方法の工夫改善など、児童生徒の実態に即した様々な取組や小中学校の連携を着実に実施していく必要がある。

- 2 基本的な生活習慣が身についている児童生徒が多い。学校の授業以外で、平日、勉強のために ICT 機器を使う時間」では、小・中学生ともに「30分より少ない」の割合が、一番多くなっている。これは、全道・全国と同様の傾向である。

一方、「平日の読書時間」は、小・中学生ともに「10分より少ない」が最も多く、全道・全国では「10～30分」が多くなっている。

生活リズムチェックシートの活用等、家庭と連携した取組を促進していく必要がある。

- 3 「自分には、よいところがあると思う」について、肯定的な回答した割合は、小学生が 78.4%（全国 86.9%）、中学生が、82.8%（全国 86.2%）となり、小・中学生ともに全国よりも少ない割合となった。

日常の授業や行事等の取組など、さまざまな活動の機会を通し、児童生徒一人一人の良さを認め、更なる自信につなげていく必要がある。

- 4 「将来の夢や希望をもっている」について、小学生では 87.1%（全国 83.1%）、中学校では 64.1%（全国 67.3%）と小学生では、全国よりも若干多い割合となり、中学生では、全国とほぼ同様だった。

職場体験学習の充実をはじめ、キャリア形成をめざすキャリア教育の工夫が必要である

- 5 「学校にいくのが楽しい」と回答する児童生徒について、小学生は、73.9%（全国 86.5%）と、全国よりも少なくなり、中学生は、82.8%（全国 86.1%）となり、全国とほぼ同様の割合だった。

小学校段階から「学ぶことや学校生活が楽しい」と児童生徒が実感できる授業や諸活動へと、より一層工夫・改善していく必要がある。